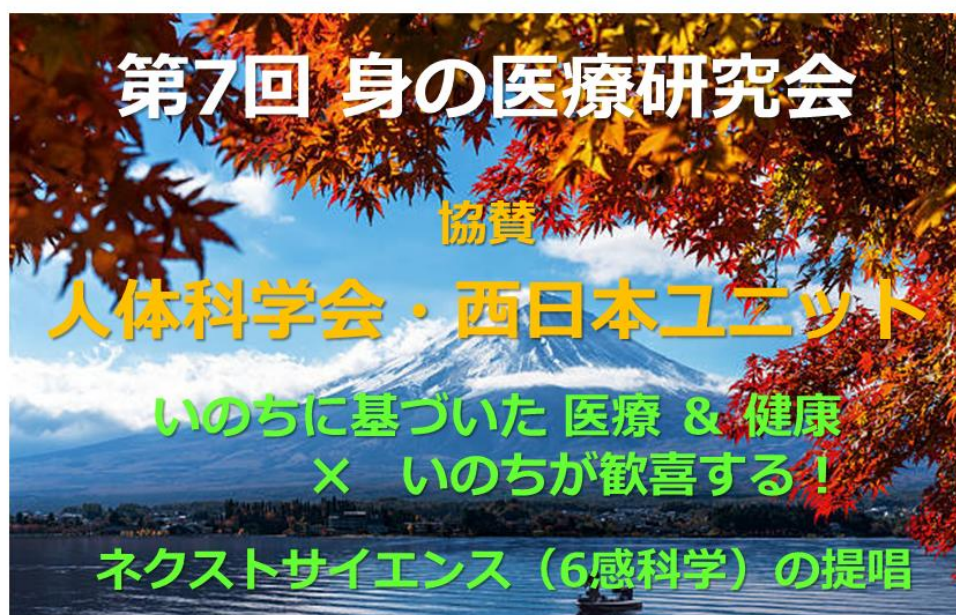


第7回 身の医療研究会 年次大会 抄録

【 Vol.1 】



開催日時：2021年11月7日（日）

受付開始：8：30

大会：9：00～17：00

Zoom オンライン開催

第7回 身の医療研究会 大会長：渡邊勝之 ご挨拶



今回、第7回身の医療研究会の年次大会を主催できることを大変光栄に存じます。

深尾篤嗣理事長から打診を受けた時、現状下ではリアル開催ができるかどうかかわからないので、オンライン開催でも宜しければ、お受けしますとの返事をしました。また同時に、時代の大きな転換期に相応しい大会にしたいと思い、受諾致しました。

本大会ではこれまでにない、初めての試みとして下記の企画を実施しております。

1. **人体科学会西日本ユニットとの共催**：パネルディスカッションの企画・運営。
2. **事前アンケートの実施**：身の医療研究会の参加者と人体科学会会員を対象として
3. **発表者をゲストにお招きしての対談ライブの実施**：毎週合計16回の実施。
4. **Facebook グループおよび LINE グループにご招待して大会前からの交流**

他にも様々な仕掛けをしておりますので、詳しくはこの抄録をご覧ください。

2021年11月7日（日）9：00 開幕です。

皆様と Zoom でお逢いできることを楽しみにしております。

注：Zoom の URL は、メールでは届かない場合がございます。

トラブル回避のため11月5日に Facebook グループと LINE グループに案内致します。お早めに、どちらかに友達申請をしてご入室しておいてください。どちらもされていない方は、大会事務局までご一報ください。

一般社団法人いのちクリエーション 代表理事

いのちアカデミー 総長

鍼灸 瑛 嵯峨嵐山 院長

第7回 身の医療研究会 大会 趣旨 & 概要

大きな転換期に突入し、いのちのあり方・使い方がわからない。
現状に満足できず、不安を抱き、自信を失い不自由な生活を送っている方。
逆にこの機を活かし、健康&美の追求・絶対的な安心感の獲得・自信をもって時代の波風を軽やかに楽しみながら超越（サーフィン）し、自由自在に闊歩されている方もおられるかと存じます。

このような転換期にこそ“**原点回帰**”し、同志らが集まり“**温故創新**”する必要があるのでは、ないでしょうか？

今回、第7回身の医療研究会・年次大会を担当することを大変光栄に感じています。また同時に、上記の問題を根本解決するための方向性を提示し、実践の第一歩を踏み出す、大きな責務があると実感しております。

先ず始めに、午前のセッションでは、人間なら誰もが有しているが、長年に渡り使用していないために忘却している、**いのち感覚（印知感覚・ゼロ感+五感）**を覚醒させ、活躍されている方々が毎日配信されている『**インスタライブ体験**』を3名の方々に生配信して頂きます。

その後、医学の常識では信じられない快復を遂げた、大学時代の同級生に『**奇跡的な治癒体験 ー現代医学・始原東洋医学・チ楽の実体験を通してー**』を語って頂きます。

引き続き『**気づき・ビックリ体験発表**』では、様々な分野で活躍されている5名の方々に、常識を超えた貴重な体験発表ならびに気づき・覚醒後に訪れた“**いのちが歓喜する！**”体験を語って頂きます。

いのち感覚（印知感覚・ゼロ感+五感）に焦点を当て、参加者の皆様方と開かれた対話（オープンダイアログ）をすることにより、さらに深くこのテーマについて、探求できれば幸いです。

午後のセッションでは、（医学・医療の源流を探究され、「始原東洋医学」の診断・治療体系を創設し、印知感覚を提唱された、故・有川貞清先生に、私は東洋医学の真髄があると直観し 1999 年から師事致しました。それよりも 6 年早く有川医院で研修され、20 年以上に渡り大変お世話になっている）先輩の山野隆先生（神経内科専門医）に、特別講演として五感にゼロ感を加えた新しい科学である『**ネクストサイエンス（6 感科学）**』の提唱をテーマとして、熱く語って頂きます。

大会長講演では、いのち感覚（印知感覚・ゼロ感＋五感）から捉えた、大会のメインテーマである『**いのちに基づいた医療&健康×いのちが歓喜する！**』をテーマとして、同名の拙編著からさらに進化した内容を提示します。

“精神と肉体”・“健康と病気”という二元論から、次元・階層を異にした、“**いのちが歓喜する**”理性と感性の調和を、お楽しみください。

最後のパネルディスカッションでは、現在迎えている大きな時代の転換期における、**「これからの学会・研究会の使命および医療&セルフケアの果たすべき役割」**をテーマとして、120 分対話します。

これまでに身の医療研究会に参加された方々ならびに人体科学会の会員の皆様を対象とした、事前アンケートを実施し、その集計結果も公表します。

それらを受けた形で、身の医療研究会ならびに人体科学会の中心を担う先生方に、パネラーになって頂き、大きな一歩を踏み出すことができれば、望外の喜びです。

Zoom を用いての 1 日開催となりますが、参加型のこれまでにない、新しい大会にしたいと考え、発表者の皆さんをゲストに招いての対談ライブ。さらに、Facebook グループ&ライングループの運営など、新しい企画をいくつも実施しています。

皆様のご参加および、智恵と力を結集し、盛会にできれば光栄です。
時空を超えて、お逢い出来る事を楽しみにしております。

第 7 回身の医療研究会大会長・人体科学会西日本ユニット世話人 渡邊勝之

身の医療研究会 深尾篤嗣 理事長 大会に期待すること



この度、いのちクリエーション代表理事・渡邊勝之先生に大会長にご就任頂き、人体科学会・西日本ユニットとの共催にて＜身＞の医療研究会 第 7 回 研究交流会がオンライン開催される運びとなりました。

大会テーマは『いのちに基づいた医療 & 健康 × いのちが歓喜する！ — ネクストサイエンス（6 感科学）の提唱 —』と聞くだけでわくわくする先進的なテーマです。

祈りの研究で有名な Dossey は、医療を歴史的に、第一段階の身体医療、第二段階の心身医療、霊性の介在を認める第三段階の医療に分類しています。

一方、心療内科の産みの親である池見酉次郎は、Engel のモデルを改良して bio-psycho-socio-eco-ethical medical model を提唱し、「心身医学的療法のゴールは実存的な目覚めにある」「実存的な目覚めには、自我を超えたスピリットへの超越が必要である」と主張していました。

また、「西欧では、天の父なる神をめざして、自我を越える『上昇的超越』が一般的。東洋では、自らの体への気づきを深め、体の知恵を通して自然の声を聞き、自然の秩序への目覚めを促す『下降的超越』が基本となっている」と東西文明間における自己超越の違いを強調していました。

日本独特の身体概念「身（み）」は、「物理的（客観的）身体」「心理的（主観的）身体」「間主観的身体」「スピリチュアルな身体」を含む成層的関係的存在であり、＜身＞の医療は心身医療から第三段階医療へのパラダイムシフトを促します。渡邊先生のライフワークともいえます「いのち」と＜身＞は一体のものだと思われます。＜身＞を介して下降的超越する体験は、社会に過剰適応することで失感情症、失体感症、失自然症に陥りがちな現代人の深層意識に周縁化されている「いのち」の働きへの気づきを促します。

それが池見のいう「実存的な目覚め」、ユングのいう「全体性の回復」につながるとともに、その過程で病が癒され健康が増進されるのです。

是非この機会にネクストサイエンス（6 感科学）の可能性をご体験ください！

第7回 身の医療研究会 発表者FB対談ライブ の Youtube URL 一覧

(1 本約 30 分です。抄録と合わせてご視聴ください。数字は実施日です。)

第1弾：ちかぴさんこと中村知加子さん；0717

<https://youtu.be/IndhPsbzPLM>

第2弾：マキコさんこと瀬尾真喜子さん；0724

<https://youtu.be/kyLoxQaqf1s>

第3弾：ティダさんこと高市弥生さん；0731

<https://youtu.be/uPGwmjTTYCw>

第4弾：ヨウコさんこと内藤洋子さん；0807

<https://youtu.be/DQCvXDHsl5U>

第5弾：身の医療研究会 深尾篤嗣理事長；0822

<https://youtu.be/2W8VIPU0IDM>

第6弾：くまさんこと熊谷真美さん；0828

<https://youtu.be/N0FU-l8TZAY>

第7弾：身の医療研究会理事 鎌田穰先生；0904

https://youtu.be/c6rZW6iW5_U

第8弾：のぐさんこと野口恭庸先生；0912

<https://youtu.be/VOySI74IFEs>

第9弾：河野雅之さん 西日本ユニット世話人（0918）

<https://youtu.be/sc59BviFB54>

第 10 弾 : 村川治彦先生 ; 0926

https://youtu.be/rKREu_vmlUs

第 11 弾 : 内田匠治先生 ; 1003

<https://youtu.be/Br0WIV7Q6m8>

第 12 弾 : きえさんこと佐藤貴恵さん ; 1010

第 13 弾 : 杉岡良彦先生 ; 1016

第 14 弾 : さおりさんこと廣瀬さおりさん ; 1023

第 15 弾 : 大会 1 週間前 全員集合ライブ ; 1031

第 16 弾 : 大会前日直前ライブ 渡邊勝之 ; 1106

大会タイムスケジュール

第7回 身の医療研究会 年次大会

開催 日時：2021年11月7日（日）9時～17時

開催 場所：Zoom

大会テーマ：『いのちに基づいた 医療 & 健康 × いのちが歓喜する！』

ー ネクストサイエンス（6感科学）の提唱 ー

主催：身の医療研究会

共催：人体科学会・西日本ユニット

後援：一般社団法人いのちクリエイション・いのちアカデミー
一般財団法人チ楽協会

○大会当日：11月7日（日） 【敬省略】

8:30～ Zoom 受付開始 （ピアノ演奏・録音）

9:00～9:10 大会長 開会の挨拶 渡邊勝之
身の医療研究会理事長挨拶 深尾篤嗣

9:10～10:10 体験セッション：インスタライブ体験 座長：渡邊勝之

- 1) 内藤 洋子：「呼吸をご一緒に」
- 2) 瀬尾真喜子：「瞑想するピアノ」
- 3) 中村知加子：「慈悲の瞑想と六方拝」

質疑応答

休憩

10:15～11:00 野口恭庸（九州看護福祉大学）：

座長：内田匠治

『奇跡的な治癒体験 ― 現代医学・始原東洋医学・チ楽の実体験を通して ―』

11:05～12:00 体験発表&対話

座長：内田匠治・渡邊勝之

テーマ：「いのち感覚（印知感覚・ゼロ感＋五感）の気づき・ビックリ体験発表」

発表者：

高市弥生 「健康という枠を越えたセルフケアの可能性」

熊谷真美 「新たな自分さがし」

佐藤貴恵 「チ楽のセルフケアによる身体の変化について」

廣瀬里織 「チ楽による自身の体験談」

中村知加子 「自宅療養の父をチ楽のセルフケアとともに看取った体験」

12:00～13:00 昼食休憩

13:00～13:55 特別講演 山野隆（山野医院・一般財団法人チ楽協会）座長：鮎澤 聡

「ネクストサイエンス（6感科学）の提唱」

14:00～14:55 大会長講演 渡邊勝之

座長：深尾篤嗣

「いのちに基づいた医療&健康 ×いのちが歓喜する！」

15:00～17:00 パネルディスカッション

「これからの学会・研究会の使命および医療&セルフケアの果たすべき役割」

司会進行：

村川治彦：身の医療研究会事務局長 ・ 人体科学会副会長・西日本ユニット世話人

渡邊勝之：身の医療研究会第7回会長 ・ 人体科学会副会長・西日本ユニット世話人

コメンテーター： 山野隆 人体科学会会員・西日本ユニット

パネラー：身の医療研究会理事長

深尾篤嗣

身の医療研究会理事

鎌田 穰

人体科学会理事 ・ 西日本ユニット世話人

内田匠治

人体科学会会員 ・ 西日本ユニット世話人

河野雅之

人体科学会副会長・中日本ユニット世話人

守屋治代

人体科学会理事 ・ 中日本ユニット世話人

杉岡良彦

○参加費（振込手数料は、各自ご負担ください。）

1) 10月末までの早割参加費 ： **4,000 円**

2) 『医学・看護・福祉原論—いのちに基づいた医療&健康—』

渡邊勝之・広井良典編集：山野隆・杉岡良彦・守屋治代 他

【 特別講演・大会長講演の理解を深めるための参考図書として、ご活用ください。】

参加費＋書籍費購入希望者の早割価格 ： **7,000 円** **（1,960 円お得です！）**

書籍の購入希望者は、**10月末まで**にご入金ください。

（締め切り以降は、大会日までに郵送できない可能性がありますので、

お早目のお申込みをお願い致します。）

3) 11月5日までお申込み参加費および

大会終了後のアーカイブ録画受講費：5,000 円

6) 書籍購入費 3,800 円（送料込み。160 円お得です！）

大会 1 日前（11 月 5 日まで）に、Zoom の URL およびパスワードをお申込みメール宛に送付致します。（メールが届かないなどのトラブルを回避するため、Facebook グループまたはライングループに、事前に友達申請をしてメンバーになっておいてください。）そちらのグループに、Zoom の URL およびパスワードの案内を致します。

ご理解・ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

備考

- 事前に google アンケートを、これまでに身の医療研究会に参加された方々および人体科学会会員を対象として実施致します。（ご協力頂ければ幸いです。）

まだの方は、下記のどちらか 1 つのアンケートに回答をしてください。

身の医療研究会 関係者およびその他の方

<https://forms.gle/RH7v5pBqBc72ShBw6>

人体科学会関係者の方

<https://forms.gle/6ok8UZaX9uqMv74T9>

- 参考申込 & 参加費入金後

Fb グループ（無料） & LINE オープンチャットにご招待します。

人体科学会【西日本ユニット】 & 身の医療研究会 参加者グループを立ち上げ、研究会開催前から、人的交流を深め、盛会へと繋げましょう！下記からどうぞ！！

◇ Fb グループ（無料） 人体科学会【西日本ユニット】 & 身の医療研究会

<https://www.facebook.com/groups/2958114187843708>

◆ オープンチャット「人体科学会【西日本ユニット】 &

第7回身の医療研究会 参加者グループ オープンチャット」

https://line.me/ti/g2/IU9ND7tHoSQGdM7cKjVUFA?utm_source=invitation&utm_medium=link_copy&utm_campaign=default

上記から友達申請をして、簡単な質問に答えて送信してください。

（LINE は本人確認のため、参加費入金の氏名を送信してください。）

友達申請（どちらか1つでも両方でも OK です）も忘れずにしてくださいね！

大会当日に使用する、Zoom の URL を連絡致します。

（メールでは迷惑メールに入り、届かない場合があります。ご協力ください。）

○ 7月17日から毎週土曜日 or 日曜日 12:30～13:00 に、

発表者らをゲストに招いて、Facebook × Youtube ライブを発信しています。

上記のグループに入られると、生配信およびアーカイブ録画も視聴できます！

Zoom によるオンライン大会参加について

【1. Zoom ミーティングへの参加方法（初めてお使いになる方へ）】

- ・以下の公式ヘルプセンターの動画をご参照下さい（約1分）。

<https://youtu.be/p2x9hh8Vo2k>

- ・PC・スマートフォン・タブレットいずれの場合も、Zoom アプリケーションでの参加を強く推奨します（※予めアプリケーションのインストールをお願いします）。ブラウザからでも参加できますが、制限があるので推奨いたしません。アプリケーションは以下からダウンロードできます（windows/Mac PC・スマートフォン（android/iphone）・タブレット共通）。

<https://zoom.us/download>

- ・公式ヘルプセンターのテストミーティングで Zoom のテストができます（参加者は誰もいません）。初めてインストールした方はテストを推奨します。演者・他の参加者の声を聞くためには参加時に音声設定が必要（画面に案内が出る）です。テストミーティングに参加することで操作できます。カメラやマイクの操作（オンオフ）もテストミーティングで理解できます。

<http://zoom.us/test>

【2. 大会への参加に際して】

- ・大会参加の招待 URL・ミーティング ID・パスワードは大会の3日前にメールでご通知します。（トラブル回避のため、Facebook グループ&LINE グループにアップします。）
- ・参加時の名前はニックネーム等ではなく氏名を入力して下さい。
例：京都太郎

- ・サインアップ（Zoom アカウントを作成すること）や、サインイン（既存の Zoom アカウントで参加すること）は特に必要ありません。サインインしなくても「ミーティングに参加」から参加できます（サインインしても構いません）。

以 上

特別講演：ネクストサイエンス（6感科学）の提唱



山野 隆：山野医院・一般財団法人チ楽協会

キーワード：ネクストサイエンス・テン医療・次元科学医療・

R B M : Regularity Based Medicine

2019年3月、人類には地磁気を感じる能力（磁覚）が意識下にある事を初めて現代科学が報告した。私が2016年から人体科学会で報告しているネクストサイエンス（6感科学）の基礎となる感覚のゼロ感の一つを科学が確認できたのだ。

ゼロ感とは5感以前の感覚の総称で、特に感覚器官を持たないものも含む。五感以外の感覚のゼロ感に五感を加えた感覚が6感である。

更に同年後半には量子ビットを利用した量子コンピュータの効能が発表された。量子物理学の実用化である。私は量子物理学の法則が現実世界にも及んでいるという一部の理論物理学者の見解に賛成する。それはネクストサイエンスで体験できる。その法則は五感では体験しにくい程繊細なものである。

ネクストサイエンスはジャンルではない。次世代の科学だ。それはジャンルの根底に流れる共通の規則性だ。しかもその範囲はほとんど全てのジャンルに及ぶ。この点が現代科学（五感科学）との大きな違いの一つだ。

ここでの科学は規則性。ruleではなく、regularity。法則性でもある。現代科学は五感科学であり、再現性、普遍性、実証性がその特徴。ネクストサイエンスも現代科学同様に訓練を受ければ、それらを得る。

ゼロ感とは例えば審美眼、空気を読む、気配を感じる、以心伝心、心が晴れやかになる根拠、五臓六腑に染み渡るの実感等で、感覚器官を持たない生物等も持つ。ここでの感覚とは対象をとらえる手段。医療に応用すると副作用の少ない心身に優しい効果的な診療が可能になる。

極めてローテク。特に私の開発したテン医療はシンプル。テンは気の流れを極め尽くした結果の数学上の点の性質を持つ身体内の点。その人の全ての心身の不具合のゼロ次元の点を Master Key Point と呼び、それを消し去る診療法。

量子の次は次元の実用化で、テン医療は次元科学医療とも言え、R B M : Regularity Based Medicine である。他に自身の個人的な夢の成就、解決したい諸問題の解決、心の安らぎを得る等の利点がある。如何に生きるか等の哲学的問題、愛、心、慈悲等の精神作用の理解、解決等にも貢献できる。

ネクストサイエンスは本質をとらえやすいので、多くの知識を必要とせず、現代科学に比べてその修得期間は短い。

大会長講演

「いのちに基づいた医療&健康 × いのちが歓喜する！」



一般社団法人いのちクリエイション代表理事【鍼灸学博士】

キーワード：いのち・LBM（Life Based Medicine & Health）・歓喜・重畳構造

東洋医学と西洋医学の融合を志し、大学に入学した。しかし、学べば学ぶほど根本から異なる両医学を一つに統合するのは無理だと諦めかけた時に、ベルグソンの「統一に向かうのではない、統一から身を起こす」の一文に触れ、それまでしてきたアプローチが、全く逆であることに気がついた。

世界三大伝統医学と呼称されている「アーユルヴェーダ（生命の科学・智慧）」・「ユナニ・ティブ（ギリシャ医学）」・「中国伝統医学」の歴史を紐解き、現地調査も行った。その結果、ルネッサンス以前は東洋も西洋もほとんど同じ医学理論・方法であることに気づいた。また、その共通基盤が【いのち】であり、そのはたらきである【自然治癒力】であるとして、原論三部作の1冊目である拙著『医療原論—いのち・自然治癒力』（医歯薬出版株式会社）に纏め出版した。

また大学を卒業後、西洋近代医学の現場の中で、東洋医学・鍼灸医学の可能性を探究することを目的として、附属病院の研修鍼灸師として残ることにした。1年目は各科をローテートし、2年目は癌を何とかしたいと考え、外科教室を志望した。そこでは、免疫学の基礎実験と並行して、癌患者さんを外来の通院時期から、入院・手術・退院まで鍼灸師の立場として主担当するという大変貴重な体験をさせて頂いた。

しかし、担当した患者さんが次々に亡くなられ、癌に対して医学、特に鍼灸医学の無力さを痛感し、バーンアウトしてしまった。その折に、澤瀉久敬先生の『医学概論3部作』を読み、「医学の立場で生命を論ずるものではなく、生命の立場で医学を論ずるものでなければならない。原論とは哲学することであり、哲学するとは自分自身で考えることであり、生命の自覚である」さらに「人間に生命力を与えることはまさにその根底の大生命（いのち）を自覚せしめることでなければならぬ。（中略）

哲学とは単なる真理の研究ではなく、生の歓喜の探究なのである。」の文章に出合い、もう一度やってみようという元気と勇気が湧き、その後の大きな指針となった。

また、生命に関わる重症患者さんを診ることができるようになるためには、「死生観」の確立が必要不可欠であると考え、多くの著書を乱読した。それらを纏めたのが、2冊目の拙著『医学・医療原論 ― いのち学&セルフケア ―』（錦房）である。

既存の鍼灸医学の限界を感じ、新たに創る必要性を痛感していた時に巡り合ったのが、故・有川貞清医師の『始原東洋医学』（高城書房）であった。本の内容も凄いが、実際に研修で目の当たりにした臨床は、まさに人間技とは思えない。中国の伝説の名医・扁鵲そのものであった。これはたとえ何年かかったとしても、できるようになりたいと考え、京都から鹿児島へ足繫く研修に通い始めて22年の歳月が過ぎた。

その研修時代に巡りあったのが、山野隆先生である。研修時代から、有川先生とは少し違った診方をされているのは気づいていたが、何がどう違うかは知る由もなかった。ちょうど2冊目の本に、セルフケアの重要性を執筆していた時に電話を頂いた。

「これからはセルフケアの時代だよ」と言われビックリし、共時性を実感した。

それまで「からだに響く鍼」「こころに響く鍼」さらに「いのちに響く鍼」がうてるようになり、病気を治すことに真摯に取り組んでいた。しかし、これからは“病気を治す医療”から“健康生成のセルフケア”へと、大きくシフトしているのが世界の潮流であり、一人ひとりの受動的意識を能動的意識へと変革することが必要不可欠となる。

それからしばらくして、山野先生から凄い発見をしたとの連絡が入った。その発見が現在のち楽へと繋がるのである。当初は、有川先生が提唱された“印知感覚”と山野先生が新たに提唱された“ゼロ感”の異同があまりよく実感できなかった。

しかし、2年前から本格的にち楽を始め、また受講生の方々に“五感以外の感覚のゼロ感に五感を加えた感覚の6感”を伝えるようになってから、大きな気づきがあり、私自身も進化した。その最も大きな成果は、私が長年探究してきた【いのちが歓喜】していることを、受講生さんらが頭の理解ではなく実体験されたことである。

今回、午前中に発表する受講生の皆さんは、いわゆるセルフケアで健康生成するだけでなく、より美しく若返る！家族や周囲の人々が元気になる！場や人間関係が変わったなど、常識がひっくり返る実体験を報告して頂くことになっている。私自身の気づき・進化の内容は、当日最新の内容を会長講演で披露致します。お楽しみに！

「呼吸を一緒に」を始めて



内藤洋子（ヨガインストラクター）

呼吸のインストラライブを始めたきっかけは、真喜子さんの「瞑想するピアノノ」だった。瞑想の前にカラダとココロを整えるといいよなと思った。それなら自分だけでなく、他の方も一緒に巻き込もう、一緒にしてもらおう、そんな感じで本当に軽いノリだった。

もう一つは、呼吸はすごく大切なことなのに誰かが教えてくれるものではない。習う機会は少ない。ならば、大切な呼吸を教えることはできないが、知っていることを伝えたい。自分のためでもあるし、誰かの役に立てればもっといいなあという思いで始めた。

実際始めると、最初の2週間くらいは緊張感もあり、やるだけで精一杯。そのうち、慣れてくると朝起きられるか不安とプレッシャーでやめておけば良かったなどと思う日もあった。そんなこんなで、気がつけば4か月が過ぎようとしている。今は、やることが当たり前になってきたように思う。

今まさに呼吸の講座を受講中で、呼吸と瞑想は関係が深いと聴いたばかりだ。たまたま始めたにもかかわらず、呼吸と瞑想は切っても切れない関係。私がしたのではなく、させてもらったのか、または見えない世界からの何かをキャッチしたのかもしれない。

インストラライブを始めて、呼吸を意識して行う時間はとても大切だとより強く思うようになっていく。欲を言えば、この呼吸を伝えようとしてするのはなく、その日のその時に湧き上がってきたことを伝えられるようになりたい。

私自身の変化は、三、四ヶ月落ち込みがちだったが、徐々に軽くなり、今はほとんど落ち込むことはない。まれに若くなりましたね、などと言ってくれる方もいた。

また、一緒に呼吸をしてくださっている方から感想や報告を頂いている。

- 猫背が改善した
- 呼吸が深くなった
- 1日のスタートがスムーズ、頭や心が鎮まる
- 三日坊主だったのに続けられている
- 呼吸が苦手だったが、意識して呼吸するようになった
- 呼吸が日課になった等

【Instagram】

https://instagram.com/yoko.1968?utm_medium=copy_link

(2021.7.31の録画)

https://www.instagram.com/tv/CR954mMJqS8/?utm_medium=copy_link

【無限の可能性がある場所へ】



瀬尾真喜子（ピアニスト）

4年位前から、ピアノによる一分程度の即興演奏の動画を毎日YouTubeにアップする実験を開始して、〇〇日（11月7日現在の数）を超えました。

また、それに加えて今年2021年3月より、毎朝7時からアンティークピアノの音で参加者とともに瞑想する、Instagramの生ライブ配信を始めました。

ここに至るには経緯があります。

3才からクラシックピアノを始めて、大学卒業後パリに留学し帰国後演奏活動をするようになってからは、ジャンルを問わず様々な音楽にチャレンジしていますが、いつも窮屈さを感じていて、一切ルールがない即興演奏に憧れを持つようになりました。

はじめはコソコソ自分だけで試していましたが、それだと結局後回しになってしまっていて上達しないことを痛感し、下手な最初の段階から記録に残していこうと決め、一分の動画を毎日公開することを公言して、やり始めました。

そのふとした思いつきの先に、未知の世界が開けていて、そこには無限の可能性が感じ、気付いたらこんなに続いてしまっているというのが現状です。

具体的に説明してみます。

特別な才能のない私の場合、頭で考えて作曲をするなら、あっという間にネタが尽きてしまうのは明らかです。

ですが、思考を止めて、自我のコントロールを手放した時のみ、アクセスできる世界があることに気が始めました。

そこには、努力や根性や意思とは関係ない、無抵抗の流れがあり、そこから、無限に音が生まれてきます。

その場所は、見える世界と見えない世界、現象界と潜象界、あの世とこの世のハザマにあるようです。

そこに立つことによって、ピアノのみならず、あらゆる分野で、無限の可能性が広がるように感じています。

【Instagram】

https://instagram.com/maki_seo?utm_medium=copy_link

【ユーチューブ】

https://m.youtube.com/channel/UCznIu2HcaxawyDYC6Xo5dqw/videos?sort=dd&view=0&shelf_id=0

【ホームページ】

<http://maki-p.com>

「慈悲の瞑想と六法拝」 ライブ配信



中村知加子

就寝前に自分自身と生きとし生けるものへの感謝と祝福を送って一日を終えるためのライブ配信を行っている。「慈悲の瞑想と六法拝」を2021年4月30日よりInstagram (@chikaoinoto) で毎晩22時10分より約20分実施。

もともと3日坊主の私が習慣化したい事であったが毎日のライブ配信をするに至るのはチ楽を共に学んでいる受講生仲間2人がそれぞれの追及されてきた分野の毎日のライブ配信をはじめた事の影響による。

●「慈悲の瞑想」・・・仏教における「慈・悲・喜・捨」の四無量心（他の生命に対する自他怨親なく過度の心配ない落ち着いた気持ちをもつこと）を簡便化したもの。私が慈悲の瞑想の文面を一文ずつ読み上げ参加者の方がそれを繰り返して唱えていく。

5年前に初めて体験し、人間不信、自己不信だらけだった私が、「私の幸せ、生きとし生けるものへの幸せを願う」言葉にふれ、自分の奥深くに「慈悲」と共鳴するものがあったことに光明を感じたきっかけとなった瞑想法。

●「六法拝」・・・お釈迦様が東西南北天地に感謝しなさいと言われたことをもとに、伝えられている六方角（東は両親、ご先祖様、西は家族、親せき、南はお世話になった師、北は友人知人、仕事関係の方、上は天体、宇宙の存在、下は地上の存在）への感謝の拝礼。

ブレイントレーニングとして経営者の方や、女子ソフトボールの日本代表チームも北京オリンピック開催の1年前からやっていたともいう。
私は初めて就寝前に行ったとき翌朝の目覚めが抜群に良く驚いた。

●ご参加くださる方からは、「人間関係の変化、嫌われていた近所の方が突然にこやかに挨拶にこられた。」「好きでなかった親戚の方の幸せを祈れた」とか、「自分自身を許せた」、「源とひとつになれた感じがした」という感想を伺っている。

【Instagram】

https://instagram.com/chikapinoto?utm_medium=copy_link

奇跡的な治癒体験

— 現代医学・始原東洋医学・チ楽の実体験を通して —



九州看護福祉大学 看護福祉学部・鍼灸スポーツ学科准教授
野口恭庸

大学4年生の9月、自転車で走行中の事故により、筆者は頸椎骨折並びに頸髄損傷を負った。

搬送先の病院にて第5・6頸椎の固定術等の処置を受け、術後、主治医より「日常生活は基本的に寝たきりの状態。移動は車椅子。腰までの装具で固めれば、短時間の立位姿勢は可能になるかもしれません…」という説明を受ける。

付き添いに駆けつけた母に対しては、自治体への装具や車椅子の申請、住居のバリアフリー化等の相談を直ぐケースワーカーとするように、という話しが続いた。

手術直後の時点で体幹部や両下肢のMMTは「0」、上肢帯は三角筋～前腕筋群が僅かに収縮する程度。両手関節以遠の知覚は僅かに残っていたが、受傷部位以下の下肢・体幹の知覚は完全麻痺で、排泄物が出ていても全く判らない状態であった。今から34年ほど前の話しである。

その後、完全麻痺とみられていた両下肢が動き出し、東京の病院へ転院。4月に東京都の身体障害者2級「頸髄損傷による左半身麻痺」と認定。PT・OTの訓練を続け、約一年後に退院。この時点で屋外での装具無し・両松葉歩行、訓練室内では5～6mの独立歩行が可能となっていた。

翌年の大学復学を機に訓練の機会は皆無となり、筋力低下が顕著だったが、障害の回復はその後も続き、30歳代で専門学校へ赴任した頃には、監督を務めるバレーボール部の練習で、対面コートからサーブを打ち込むこと位はできるようになっていた。これが今から25年ほど前の話しである。

しかし、機能回復はその後も僅かずつだが継続する。

さらに、その後の有川貞清先生・始原東洋医学との出会い、また山野隆先生・チ楽との出会いによって引き起こされた身体の変化、現在も続く機能回復についても、講演の中で詳しく紹介する。

健康という枠を越えたセルフケアの可能性



高市弥生（染織物・ヨガインストラクター）

京都出身で、沖縄県西表島に在住 25 年以上になりました、高市弥生と申します。15 年前から、当地伝統みんな織りの帯を中心に、染め織りの仕事をしています。ちょうど同じ頃からヨガ教室を週 1 回朝晩の 2 クラスも続けています。

当地は離島ということで医療体制が脆弱なこと、また死ぬまで引退なし、元気に現役で働くという選択肢しかない中、これまでもヨガを続けてきましたし、色々と健康向上を目指しやってきてかなり元気になりました。が、もう一歩核心的なツールを身に着けたいと思った時にこのセルフケアに出会いました。

健康というだけの狭い領域にとどまらない変化や発見がありましたので、発表します。

まず日常生活において。
毎日目にするものの見え方が変わりました。例えば、毎朝朝日の出る頃ルーティンのヨガと呼吸法をしているのですが、刻一刻変化する自然のその一瞬一瞬がまさに輝いてる、という感じです。

5 感や思考から離れてみることで、視覚的に美しいとか言うのを超えて、どの状態も素晴らしく「今日はこうか！」という感動を覚えるようになりました。
思考調整できるとあらゆる場で、その場その時そのままを感じられホッとします。

仕事面では。
染め織りの仕事は天気によって左右されます。チ楽のセルフケアを始めてから、直感的に間髪いれずその日の作業に取り掛かると、ちょうどその作業に都合いい天気になることが増えました。また西表島の植物でやる染めのとらえ方が変わってきました。

こんな色が出るはずだという思い込みや期待をもって染めるのではなく、その植物そのものが宿している色を最大限に引き出す、いただく、というふうに出た時、想像以上にとってもいい色に染まるようです。

今後もこの部分を極めて行きたいと思っており、将来自分の染め織りしたものが、5 感では表現できないんだけど、「なんかいいよね、なんか身に着けたいよね」といわれるようになるのが希望です。

文章に出来ませんでしたがお話の色々とお話したいので、時間許す中でお話ししたいと思います。

新たな自分さがし



熊谷真美（保育士）

私は、35 年間、保育の仕事をしています。その内、15 年間は児童発達支援の仕事に携わらせていただいています。

お陰さまで、多くの子どもたちや、保護者、先生方とのご縁に恵まれています。
来年度を迎える、2021 年 1 月に一つの任務を任されることを告げられました。

これまで私は、園長としても多くの諸先輩方に甘え実践を積み重ねていた自分に気づかされました。モヤモヤしながら過ごす中で、何かをはじめたい気持ちがわいてきました。そんな時に、目にとまったのが「究極のセルフケア」でした。

セミナーを受講しはじめた頃、導かれることばが聞き慣れず、戸惑うことや「あっ、これは、仕事でもアルアル。」と思えたり。

ただ、ひたすらち楽のフィンガーケア 1 分の体験を 5 回。しかし、仕事をしながら時間を作ることは、なかなか難しく、「まっいいか。」と思う日もありましたが、継続すると不思議に時間がとれるようになり変化を感じるようになりました。

一つ目の変化は、「先生、元気ですねえ～」

いろいろな先生からその仕事の量で疲れませんか？と声をかけられます。

なぜか？と聞かれても考えられることは、ち楽をはじめたことしか考えられることはありません。また、何かをするにも、『面白がる』ことが増えました。また、人とのつながりで生かされていますがこれまでにご縁のない方々との出逢いが増えました。そして、いい話やいいことばに触れる機会もあり、自身が変わり、また新たな出逢いが訪れています。

2 つ目の変化は、寝たきりの父にち楽のシングルスティックケアをすることでち楽の効果を感じています。手も足も動かすことができない父が自ら手を動かしたり足を動かしたりするようになりました。また、父は食べることが大好き。しかし、ミキサー食は難しい。料理が嫌いではない私も億劫になることがありましたが今日はこれっというように不思議な声が聞こえるようになりました。

ち楽をしているお陰です。

私はち楽をしているというよりもち楽をしている私、家族がいることを感じます。

こうして、楽しみながら継続できているのは、渡邊先生と二期のメンバーといっしょの時間があることです。みんなのち楽的な体験を聞いたり、いっしょの時間を過ごしたりする中で、パワーをいただいたり共鳴したりして更に私自身もパワーアップしています。

こうした、新たな出逢いによって見える景色を楽しみながら、規則性を身につけていきたいと思います。

「チ楽のセルフケアによる身体の変化について」



佐藤貴恵（鍼灸師）

チ楽のフィンガーケアとシングルスティックケアを初めて約半年が経ちました。はじめは、臨床に生かしたいと思い受講しましたが、私自身の身体の変化が大きかったので、体験談としてお伝えします。

まず、大きな変化は、このような場所で話そうと思ったことです。私はもともとアウトプットが苦手で、できることなら人前にも出たくないし、しゃべりたくもない性格なのですが、今回は話しても良いかなと思えました。

人見知りもするので、新しい環境や知らない人に会う、新患さんに入ることも苦痛なのですが、抵抗がなくなっていることに気づきました。現在、臨床に戻っていますが、患者さんとのコミュニケーションはもちろんですが、スタッフとの会話も問題なくできています。

身体の変化としては、疲労感がなくなったことに驚いています。休みがなくても身体が疲れなくなりました。体力的に辛く、臨床から離れた期間もありますが、今の状態であれば続けられそうです。

休みが待ち遠しく、週のはじめから長いと感じていたあの頃は、何だったのだろうという感じです。

臨床では、治療方針や選穴を悩まずに決められるようになって、治療時間にも余裕ができました。治療中に「いま」という感覚がよりクリアに感じるようになってきました。

受講の中で、「私がどのように感じたのか」を言葉に表現したり、やノートに書く機会がたくさんありました。作業を通して、違いは違いであって（個性）であり、間違いではないということを実感することができました。

全てが肯定されている不思議な感じがします。自分では、気づかない間に勝手に誰かと比較して、誰かの望む自分を生きていたのかもしれない。

チ楽による自身の体験談



廣瀬さおり（鍼灸師）

1. はじめに

鍼灸の専門学校を卒業後、2年以上経っても自信をもって鍼を打つことができずにいました。体が鍼を欲している場所を選定し、方向と角度を合わせて鍼を体表に置くと体が鍼を吸うといった言葉で教わるができない微細な感覚は、どのように磨いていけばいいのかわからず思い悩んでいたときにチ楽に出会いました。

2. 体験 1

はじめの数ヶ月は暗記する・理解するといった今までの学習方法とは全く違う講座の進め方にとっても戸惑いました。何だかよくわからないまま回数を重ねていたのも、成長を感じられることはありませんでした。

ところが、基礎養成セミナーを始めて半年近く経った頃、思考調整が上手くいき、手が勝手に動いて鍼を刺す場所・方向・角度が決まり、体に力で鍼を無理やり刺さなくても吸い込まれるようにスッと入っていくという体験をしました。鍼はしかるべき場所で止まるので、自然と深さもわかります。最初は自分を信じられず方向や角度を探り「これでいいのかな？」と考えてしてしまうので、体が鍼を吸わないということが度々起こりました。そんな時は深呼吸して、再び思考調整をすると上手くいきます。

チ楽は感覚を磨き深めていくのにとっても役に立つと感じています。

3. 体験 2

私は約 15 年前に事故で未亡人になり、うつ病で引きこもっていた時期がありました。人の役に立つ仕事をしようと思い鍼灸師になりましたが、それは建前で、基本的には生きづらさを抱えたままでした。

生きることが楽しいと思えることはなく、生涯うつ病と付き合っていくのだらうと思っていました。ところが、チ楽と一緒に学んでいる方のお話から、私の体内で心臓が歓喜して動いているのを体感することができました。

思考調整すると生きづらさは一切なくなり、体はひたすら歓喜して生きているということが体を通してわかりました。

思いがけずチ楽でうつ病が治り、驚いています。

自宅療養の父をチ楽のセルフケアとともに看取った体験



中村知加子

- 自宅療養していた父（83 歳）の状況・右下葉肺腺癌（ステージ 4 全身転移）、右胸水（2020 年 5 月までは定期的にドレナージ）、慢性腎不全 G4A3、前立腺癌、水嚢胞。在宅酸素。
- 経緯 2020 年 3 月呼吸困難状況あり。体力の低下から 6 月、通院が困難となり訪問診療に切り替える。2020 年 10 月には、1 日のうち 22 時間は眠り続けていた状況の父が 10 月 13 日からチ楽のセルフケアを娘（私）が始めたことで、突然回復してきた。歩行器で十数メートル歩き、リビングでテレビをみたり、食事も 3 食とり、入浴も週 2 ペースで娘の介助つきで実施。
- しかし 2021 年 1 月半ばに発熱があり、以降寝返りもできないような完全寝たきり状況になる。この間、毎日シングルスティックケアを実施。呼吸困難はなく、痛みの訴えないため、入院せず自宅で看取ることができた。褥瘡も全くなし。声はかなり大きく夜中に「おーい！」と「あー！」と大声を何時間も叫ぶ。
- 3 月 19 日、亡くなる 4 日前に人相が変わる。（瞳が輝く、肌つやがよくなる、ほほ笑み）気分は上々とのこと。
- 3 月 23 日亡くなる。午前 11 時に母と交代で見守りに入り、スティックケアをしようとしたとき、下顎呼吸の動きが止まる。さらに指につけていたサーチュレーションの酸素飽和濃度が突然良好な数値を示す。その後医師からは「すでに心臓動いてない」と死亡診断されるも指につけていたサーチュレーションの酸素飽和濃度や脈拍は正常値を示す。医師からは「こんなの初めて見た怪奇現象だ！」と言われる。
- 死後、遺体にドライアイスをおいて 2 日後、上半身は蠟人形のようにカチンカチンになるも、脛は生温かく細胞はまだ生きている感あり。
- こうした体験の中で生死観の変化。生と死はグラデーション。霊柩車が満開の桜並木のアーチを通り火葬場へ。まるでこの世の卒業式、あの世への入学式。死後に示してくれたサーチュレーションの良好な数値を私はどう受け止めたか。

パネルディスカッション

「これからの学会・研究会の使命および医療&セルフケアの果たすべき役割」

司会進行：

村川治彦：身の医療研究会事務局長 ・ 人体科学会副会長・西日本ユニット世話人

渡邊勝之：身の医療研究会第7回会長 ・ 人体科学会副会長・西日本ユニット世話人

コメンテーター： 山野隆 人体科学会会員・西日本ユニット

パネラー：身の医療研究会理事長	深尾篤嗣
身の医療研究会理事	鎌田 穰
人体科学会理事 ・ 西日本ユニット世話人	内田匠治
人体科学会会員 ・ 西日本ユニット世話人	河野雅之
人体科学会副会長・中日本ユニット世話人	守屋治代
人体科学会理事 ・ 中日本ユニット世話人	杉岡良彦

皆さんから送信して頂いたアンケート結果も報告し、パネルディスカッションの話題として取り上げます。

また、各パネラーの方々には、渡邊との対談ライブのゲストとして、約30分思いを語って頂いております。

Facebook グループおよび LINE グループに、アーカイブをアップしておりますので、ご覧頂ければ幸いです。

参加者が能動的に発言できるよう、チャットでの質問なども受付、大いに盛り上げたいと考えておりますので、ご理解・ご協力頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

注

この抄録は、大会前日までバージョンアップします。

最終版は、Facebook グループおよび LINE グループにアップ致します。